

やまなし農業基本計画

(令和5年度～8年度)

【ダイジェスト版】

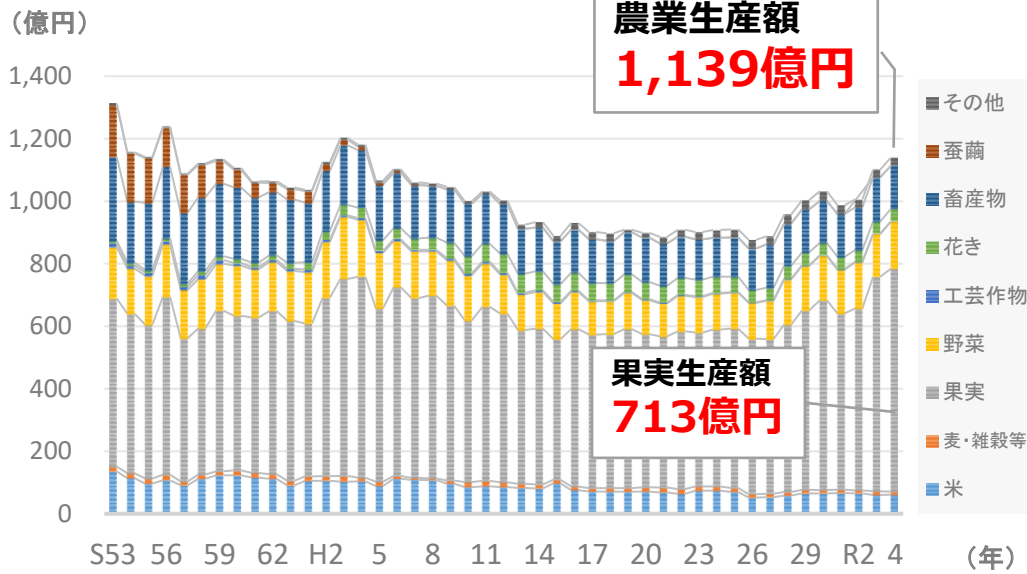


おいしい未来へ
やまなし

山 梨 県

現状・課題と施策の方向

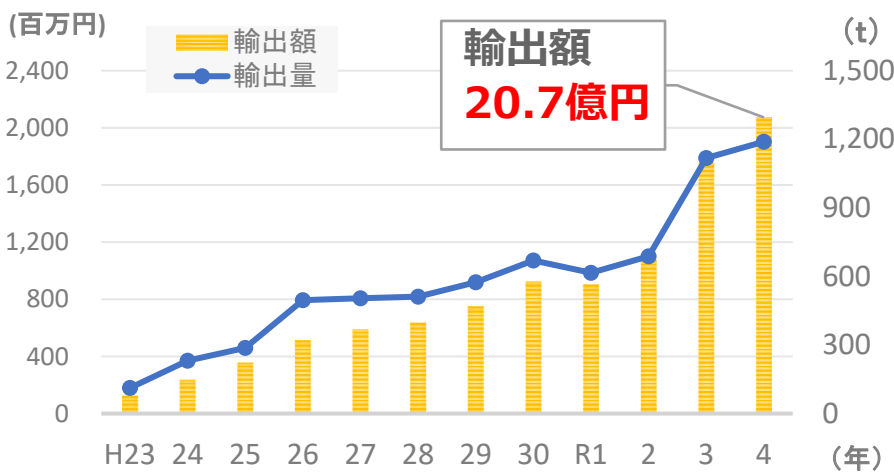
◆農業生産額の推移（農政部調べ）



- ・農業生産額は増加傾向、R4は1,139億円（うち、果実生産額は713億円と過去最高）
- ・本県独自の認証制度（4パーミル・イニシアチブ、アニマルウェルフェアなど）の創設
- ・一方、国内人口の減少による国内市場の縮小と産地間競争の激化
- ・肥料、配合飼料、燃油等の価格高騰・高止まりによる経営の圧迫

高品質化と高付加価値化の推進

◆県産果実の輸出額及び輸出量の推移（農政部調べ）



デジタル × リアル



効果的なプロモーション

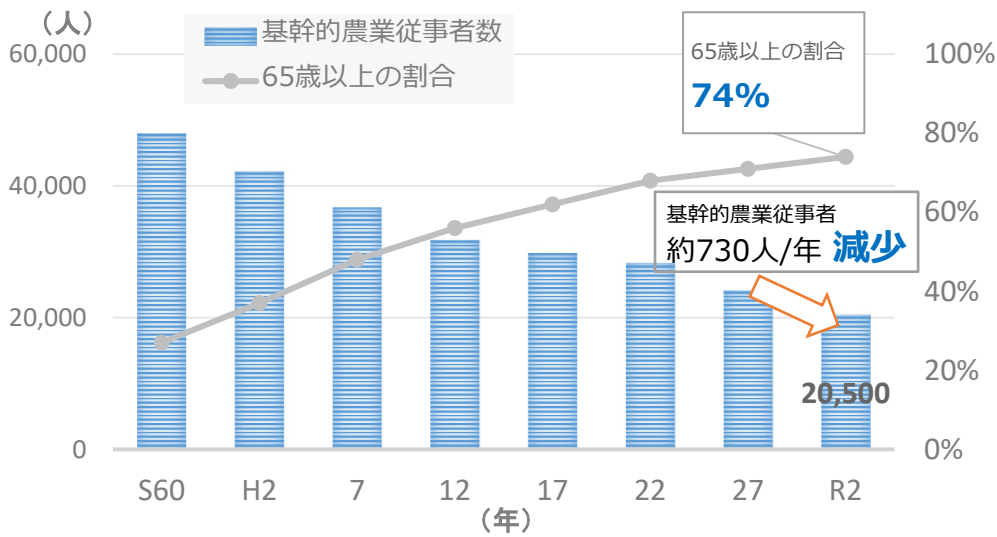
- ・県産果実の輸出額が20億円を突破（R4）
- ・米国産すももの輸入解禁（R3）、ももの輸入解禁要請（R4）
- ・デジタルとリアルを組み合わせた効果的なプロモーションの展開
- ・「おいしい未来へ やまなし」をキャッチフレーズにブランド化を推進



「やまなし」ブランドの確立

現状・課題と施策の方向

◆ 基幹的農業従事者の推移（農林業センサス）

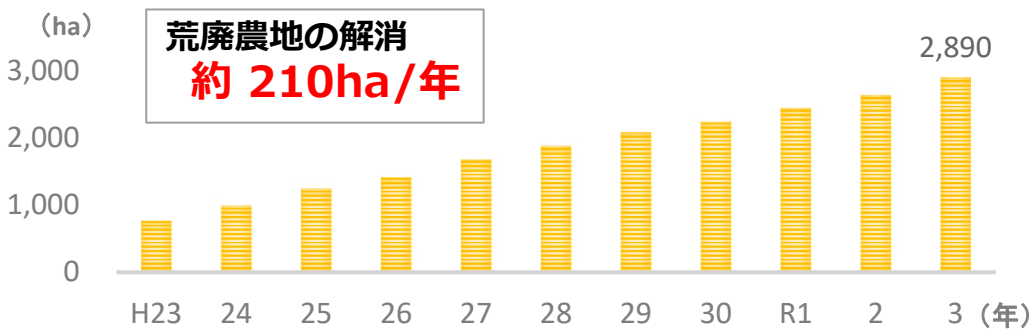


新規就農者
約 320人/年

- ・ 基幹的農業従事者の減少（約730人/年）と65歳以上の農業従事者の割合増加（R2 74%）
- ・ 新規就農者の確保（約320人/年）※H30～R4平均

担い手の確保・育成

◆ 荒廃農地の累計解消面積の推移（農林水産省 H20～）



防災重点ため池
約60% 整備済

◆ 水田及び畑地の整備済面積及び整備率（農政部調べ）

区分	地目別 耕地 面積 (ha)	平成27年度		令和2年度		令和4年度	
		整備済 面積 (ha)	整備率 (%)	整備済 面積 (ha)	整備率 (%)	整備済 面積 (ha)	整備率 (%)
水田	7,650	5,458	71.3	5,531	72.3	5,580	72.9
畑地	14,650	3,999	27.3	4,501	30.7	4,702	32.1



- ・ 荒廃農地の解消は着実に進行（約210ha/年）
- ・ 基盤整備済み面積は水田の約70%に対し、畑地は約30%
- ・ 防災重点ため池89箇所のうち整備済みは53箇所（R4）

生産基盤の整備

本県農業の目指すべき姿と今後の取組

目指すべき姿

ビジョン

農畜水産物のブランド価値を向上させ、また生産基盤を更に強化することで、**生産者の所得向上**を実現し、**豊かさを実感**できる持続可能な農業・農村を創出する。

実現に向けて

目標

※ 目指すべき姿の実現に向けて2つの目標を設定

- I 農畜水産物のブランド価値の向上
- II 生産基盤の更なる強化

施策の柱

※ 目標の達成に向けて5つの施策を柱に取り組む

- 施策1 生産・流通・販売の三位一体の高度化
- 施策2 戦略的ブランドプロモーションの展開
- 施策3 明日の農業・農村を担う人財づくり
- 施策4 農村地域の保全と基盤整備
- 施策5 防災・減災対策による農村の強靱化

重点施策

- 1 「やまなし」ブランドの確立
- 2 高品質化と高付加価値化の推進
- 3 担い手の確保・育成と生産基盤の整備



施策1 生産・流通・販売の三位一体の高度化

優良品種の開発・普及や先端技術を活用した生産技術の普及等により、農畜水産物の高品質化と生産性の向上を図るとともに、高付加価値化につながる本県の特徴ある取り組みを推進する。

また、品質管理の徹底と安定した流通体制の構築を進めるとともに、販路開拓と輸出拡大に取り組む。

◆主な施策◆

(1) 高品質・安定生産による競争力の強化 生産



果樹

- ◆オリジナル品種の開発、優良品種の早期産地化
- ◆高品質・安定生産技術の開発・普及
- ◆国内外の市場における産地競争力の強化
- ◆ワイナリーの需要に応じた醸造用ぶどうの生産拡大



水稻等

- ◆優良品種の選定と高品質米の生産拡大
- ◆水田のフル活用による麦、大豆等の生産拡大
- ◆飼料用米等の生産拡大と耕畜連携の推進



畜産

- ◆甲州統一ブランド食肉の生産基盤強化
- ◆低コスト化と飼料自給率の向上
- ◆グラスフェッドビーフの生産技術の実証・普及
- ◆畜産ヘルパーの育成と組織強化



野菜

- ◆「やまなし野菜」の振興と主要野菜の産地強化
- ◆地域特産野菜の生産拡大
- ◆高品質化、省力・低コスト化技術の開発・普及



花き

- ◆オリジナル品種等の種苗供給と栽培技術の普及
- ◆有望品目等の安定生産技術の確立・普及
- ◆需要にあった品目等の選定・導入



水産

- ◆県ブランド魚「富士の介」の生産体制の強化
- ◆アユ等の種苗供給と養殖効率の向上



地域特産物

- ◆老朽化茶園の更新と茶園地の集積
- ◆プレミアムティーの商品開発や有機栽培の実証



「サンシャインレッド」



「夢みずき」



「やまなし野菜」の振興



「甲州地どり」



プレミアムティーの開発



「富士の介」



高品質米の生産拡大



「ピラミッドアジサイ」

I 農畜水産物のブランド価値の向上

施策1 生産・流通・販売の三位一体の高度化

(2) 先進的技術の導入による生産性の向上 **生産**

- ◆ 匠の技術を見える化するデータ農業技術の開発・普及
- ◆ スマート農業技術の実証・普及、スマート農業の活用にも効果的な基盤整備の推進



データ農業の技術開発
(左：施設ぶどう、右：施設きゅうり)

スマート農業の技術の実証・普及
(左：自動草刈り機、右：農薬散布用ドローン)

(3) 農畜水産物等の高付加価値化の推進 **生産・流通**

- ◆ 4パーミル・イニシアチブ、アニマルウェルフェアの取り組みの拡大
- ◆ やまなしジビエ認証施設の拡大と「やまなしジビエ」のPRや販路拡大
- ◆ これらの商品を「エシカル・プレミアム」として差別化し、高付加価値化を推進



4パーミル・イニシアチブ



アニマルウェルフェア



やまなしジビエ

(4) 安全・安心で持続可能な農業の推進 **生産**

- ◆ 環境負荷低減に向けた有機農業や環境保全型農業の取り組みの推進
- ◆ 化学肥料や輸入配合飼料等の使用低減による生産コスト削減
- ◆ 地球温暖化等による異常気象に対応した農業の推進、家畜伝染病の防疫体制強化
- ◆ 安全・安心な農業生産に向けて農薬の適正使用の徹底、GAPやHACCPなどの推進



環境保全型農業の推進
(左：草生栽培、右：堆肥施用)



有機農業の推進



家畜伝染病への防疫



GAPの推進

(5) 品質管理の徹底と効率的な流通体制の構築 **流通**

- ◆ 集出荷施設の再編整備や低温貯蔵庫などの共同利用施設の整備等を支援
- ◆ 果実の出荷規格の統一と品質管理を徹底した出荷・輸送体制の構築
- ◆ ふるさと納税返礼品のクオリティの確保



集出荷施設の再編整備

I 農畜水産物のブランド価値の向上

施策1 生産・流通・販売の三位一体の高度化

(6) 販路拡大と6次産業化の推進 流通・販売

- ◆生産者と実需者のマッチング支援、県オリジナルブランド農畜水産物等の販路開拓
- ◆農業の6次産業化の推進、規格外農産物を活用した新商品の開発支援
- ◆農産物直売所や学校給食などにおける地産地消の促進



6次産業化の推進
(左：加工施設整備、右：商品開発)



地産地消の促進
(左：学校給食、右：直売所)

(7) 輸出の更なる拡大 流通・販売

- ◆ぶどう、もも等の輸出先国拡大のため、輸出解禁に向けた検疫条件の早期設定を国等へ要望
- ◆果実の輸出で構築した「やまなし」のブランド力を生かし、米、牛肉、魚などの輸出品目を拡大
- ◆品質管理の徹底と輸出促進に向けた流通体制づくり



国等への要望活動



品質管理を徹底した流通体制づくり
(左：ももの箱詰め、右：輸出検疫への対応)



海外店舗での販売促進

◆主な目標◆

成果指標	現況値 (R4)	目標値 (R8)
ぶどう「サンシャインレッド」の生産量	0 t	100 t
優良品種への改植面積 (4年間)	184 ha	200 ha
「にじのきらめき」栽培面積	2 ha	95 ha
甲州牛生産頭数 (4年間)	1,927頭	2,100頭
データ農業によるシャインマスカット収量	1.3 t/10a	2.6 t/10a
4パーミル・イニシアチブ取組面積	4,926 ha	7,300 ha
有機農業の取組面積	247 ha	300 ha
果樹の共同選果施設 再編成整備 (4年間)	1地区	2地区
県産果実の輸出額	20.7億円	35億円



施策2 戦略的ブランドプロモーションの展開

県産農畜水産物等のブランド価値の向上を図るため、効果的なプロモーションを国内外で展開するとともに、消費者や実需者に対し「やまなし」ブランドの情報発信に取り組む。

◆主な施策◆

(1)効果的なプロモーションの推進

- ◆デジタルとリアルを組み合わせた効果的なプロモーションを国内外で展開
- ◆市場情報を産地へフィードバックするとともに、実需者等へのPR活動を実施

(2)「やまなし」ブランドの確立

- ◆「おいしい未来へ やまなし」をキャッチフレーズに「匠の技」などをストーリーで情報発信
- ◆「やまなし」ブランドの牽引役となるスーパープレミアムブランドの育成
- ◆4パーミル・イニシアチブやアニマルウェルフェア等の取り組みによる新たな付加価値の創出
- ◆上質な料理を提供する飲食店等に対し、特色ある農畜水産物等の魅力を訴求しながら生産者とマッチングすることにより、販路を拡大するとともにブランド力を強化



×

効果的なプロモーション（デジタル×リアル）



「やまなし」ブランドの確立
（「匠の技」、美酒・美食）

◆主な目標◆

成果指標	現況値 (R4)	目標値 (R8)
ブランド関連サイト等へのアクセス数（4年間）	10万 件	80万 件
【再掲】県産果実の輸出額	20.7億円	35億円



施策3 明日の農業・農村を担う人財づくり

新規就農者の確保・育成を図るため、準備段階から就農定着、経営発展まで切れ目のない手厚い支援を実施するとともに、女性農業者等への支援や農福連携を推進する。

◆主な施策◆

(1)新規就農者の確保・定着

- ◆就農支援センターと連携した就農相談、就農希望者への農業体験の機会を提供
- ◆企業参入を促進するため、相談対応やセミナーの実施、農地の確保や営農計画の作成を支援
- ◆新規就農者の就農定着に向けて、技術習得や経営資金、機械・設備等の整備を支援
- ◆就農の準備段階から就農後の定着・経営発展までの切れ目のない支援と農地、住宅、施設整備等の情報をパッケージで提供する農業継承システムを構築
- ◆農業体験の機会を提供することにより、小学生や都市住民等の農業への理解を促進

(2)多様な担い手の育成

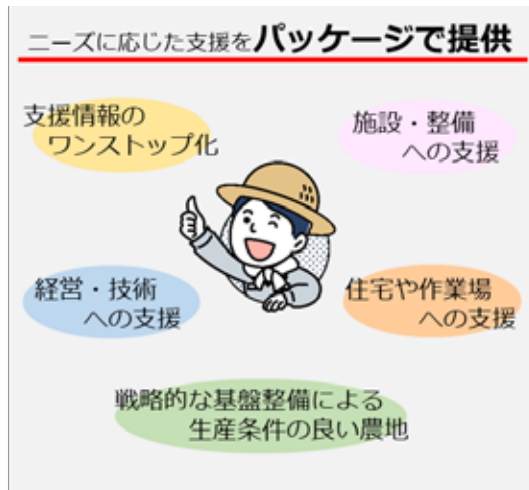
- ◆セミナー開催や経営の専門家派遣等を通じて、経営改善を目指す農業者等の規模拡大や法人化を支援
- ◆女性リーダーの育成に向けた研修会の開催や地域を支える農業者グループの活動を支援
- ◆農家と福祉施設のマッチング等により、農福連携を推進



就農相談



小学生の農業体験



農業継承システム



女性農業者の活動支援



農福連携の推進

◆主な目標◆

成果指標	現況値 (R4)	目標値 (R8)
新規就農者数 (4年間)	1,273 人	1,400 人
女性リーダーの育成数 (4年間)	0 人	16 人
農福連携のマッチング件数 (累計)	244 件	364 件

II 生産基盤の更なる強化



施策4 農村地域の保全と基盤整備

担い手への農地の継承・集積と果樹産地等の基盤整備を推進する。
また、農村地域の保全・活性化を図るため、農泊や地域の保全活動、荒廃農地対策を推進する。

◆主な施策◆

(1)担い手への農地の継承と集積・集約化の推進

- ◆「地域計画」の策定を支援し、担い手への農地の継承と集積を加速化
- ◆貸し手と借り手情報のデータベース化やマッチングを支援
- ◆荒廃農地の発生防止や再生・活用に向けた農地賃借や基盤整備等の推進

(2)産地の競争力強化に向けた基盤整備の推進

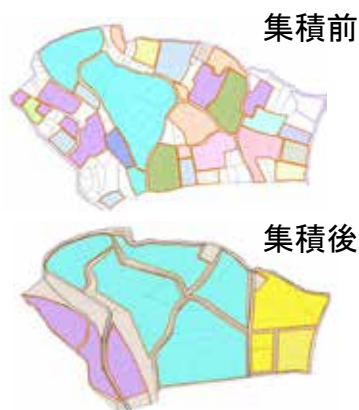
- ◆農作業の省力化や効率化に資する基盤整備の推進
- ◆新規就農者に向けた生産条件の良い農地の提供や担い手への農地の集積・集約化に資する基盤整備
- ◆ほ場や農道等の基盤整備や施設整備等の支援により企業の農業参入を促進

(3)農村地域の保全・活性化

- ◆都市住民との交流拡大に向けた農業体験メニューの多様化と魅力ある農泊プログラムの開発支援
- ◆障害者の農業分野での就労機会を確保する農福連携を推進
- ◆農業・農村の多面的機能の保全と活用に資する活動への支援
- ◆野生鳥獣による農作物被害対策、カワウ等による放流魚への食害防止対策を推進



地域計画の策定と担い手への農地集積・集約化



共同活動による維持・管理



鳥獣害防止対策の推進

◆主な目標◆

成果指標	現況値 (R4)	目標値 (R8)
農地集積率	47 %	55 %
果樹産地等における基盤整備面積 (累計)	4,702 ha	5,100 ha
県内農泊の宿泊者数 (年間)	10,048 人	13,440 人



施策5 防災・減災対策による農村の強靱化

自然災害が頻発化・激甚化する中、農村地域の強靱化を図るため、農業用施設の耐震化や豪雨対策、長寿命化を推進する。

◆主な施策◆

(1)農村地域の防災・減災対策の推進

- ◆将来発生が予測される大規模地震に備え、農業用施設の耐震化の推進
- ◆農業用ため池の計画的かつ集中的な整備
- ◆自然災害を未然に防止する排水機場などの農業用水利施設や土砂崩落防止施設等の整備を推進

(2)農業用施設の長寿命化の推進

- ◆農業用施設の機能が健全に発揮できるよう、機能診断に基づく長寿命化対策を推進



防災・減災対策（農業用ため池）



農業用施設の長寿命化
（水路トンネル）



農業用施設の長寿命化（排水機場）

◆主な目標◆

成果指標	現況値（R4）	目標値（R8）
耐震対策済の農業用ため池数（累計）	53 箇所	73 箇所
農業用水利施設等の整備済箇所数（累計）	41 箇所	53 箇所

主な地域別重点推進事項



中北地域

(1) 特色ある農畜水産物の生産振興と高付加価値化の推進

- ・ブランド米や果樹オリジナル品種の生産拡大とデータ農業技術の普及等による産地強化
- ・有機農業やアニマルウェルフェアの取り組み拡大による高付加価値化の推進

(2) 地域資源を生かし多様な人材が活躍する活力ある農村づくり

- ・農業基盤の整備等による担い手への農地集積
- ・農泊や市民農園を通じた都市農村交流やため池の改修などの防災・減災対策

峡東地域

(1) ブランド価値の向上による産地の競争力強化

- ・果樹を中心とした高品質生産の推進と輸出促進に向けた出荷体制の強化
- ・4パーミル・イニシアチブの普及拡大や6次産業化商品の開発による高付加価値化の推進

(2) 担い手の確保・育成と生産基盤の更なる強化

- ・地域計画の着実な推進と担い手への農地集積、果樹産地を支える担い手の確保・育成
- ・世界農業遺産を活用した地域活性化や低コスト化に向けた基盤整備の推進



峡南地域

(1) 地域特産物の生産振興とブランド化

- ・「あけぼの大豆」などの地域特産物の高品質・安定生産に向けた栽培技術の普及
- ・地域特産物の6次産業化や販売促進、ブランド化に向けた取り組みへの支援

(2) 地域資源を生かした魅力ある農村づくりと生産基盤の更なる強化

- ・中部横断自動車道を軸とした都市農村交流による魅力ある農村づくりの推進
- ・多様な担い手の確保・育成と農地集積、持続的な発展に向けた防災・減災対策の推進

富士・東部地域

(1) 恵まれた立地条件を生かした農業振興

- ・「富士山やさい」や地域特産花き、「富士の介」などの生産振興とブランド価値の向上
- ・持続的な畜産経営に向けた生産基盤の強化とグラスフェッドビーフ生産等による高付加価値化の推進

(2) 地域農業を支える担い手の確保・育成と観光資源を生かした農山村の活性化

- ・高原野菜や酪農など特色ある農業を支える担い手の確保と農地集積の推進
- ・観光と連携した地産訪消や美しい農村景観の維持と環境に調和した基盤整備の推進



山梨県農政部農政総務課

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL:055-237-1111 (代表)

<https://www.pref.yamanashi.jp/nousei-som/index.html>